

平成28年度「不登校に関する研修会」講義概要

第2回：平成28年8月19日（木）姫路市市民会館

テーマ「気になる子とその保護者へのかかわり方 ～発達障害が疑われる子の支援に向けて～」

講師：曾山 和彦（名城大学大学院 教授）

1 講義内容

(1) はじめに

発達障害が二次的な要因として不登校へつながっている場合がある。今日はそうした状況で考えられる2つの力の弱さについて話していく。2つの力とは自尊心とソーシャルスキルの問題である。

(2) 気になる子の保護者が安心するには

ア 法律、発達障害の基礎知識を持つ教師であること

差別解消法→基礎的環境整備8項目、合理的配慮3観点11項目

イ 保護者の話を聴く教師であること

(ア) 口は一つに、耳二つ

(イ) 構えずに聴く

(ウ) 逆転移に注意

ウ 言葉を伝えるための大前提

(ア) 話し上手は、聴き上手

a 言葉の応答に限らず、身体全体、心も併せて聴けたか

b 相手の話を取ってしまわなかったか

c ジョイニング（波長合わせ）ができたか

(イ) 傾聴の基本技法

a 受容

b 繰り返し

c 明確化

d 支持

e 質問

(3) 教室でできる特別支援教育

ア 気になる子の理解

・自尊心とソーシャルスキルがキーワード

・SC、SSW等、いろいろな専門性を持った人が集まってチームで育てることが大切

イ 学級集団の理解

・学校を「居場所」にする2条件→「ルール」と「ふれあい」

ウ 自尊心&ソーシャルスキル育成

・ルールづくり→ソーシャルスキル育成

・ふれあいづくり→自尊心育成

[方法] SST や SGE を活用する

カウンセリング理論による伝わる言葉をかける

(4) おわりに

ア 学び続けることは教師の「職業倫理」

・本を読んだり研修に参加したりして自分の引き出しを埋めていく

イ 今、見ている景色も楽しむ

・気になる子の成長を見ながら次の支援を考える

2 受講者の感想

- ・分かりやすく実態に合わせた内容だったので大変参考になった。
- ・保護者の方の思いや学校としての役割を改めて考えるよい機会となった。
- ・内容が整理されており、自分自身も整理理解できた。
- ・非常に分かりやすく、演習も子どもたちの中で使えそうでよかった。
- ・傾聴すること、勇気づけること、子どもの自尊感情を高める支援ができるように心がけたい。
- ・特別な支援の必要な生徒だけでなく、どのような生徒に対しても活かせる内容であった。
- ・子どもの見る視点、子どもに声かけする方法等を学ぶことができ勉強になった。
- ・具体的な言葉かけについて説明があり、とても分かりやすかった。アイメッセージなど、少しの意識の違いで別の表現になることが分かった。
- ・縦系、横系それぞれの強化を図っていきたいと強く思った。
- ・教師と子ども、子ども同士、どちらの関係作りも大切にしたいと思える講義であった。SSTやSGEをもっと詳しく勉強したいと思った。
- ・家庭、地域が変化するため、学校側が少ししんどいことでも請け負う必要があると思った。
- ・学校や教室が居場所として安心できる場になれば不登校生徒は少なくなると、改めて確信させてもらえる内容だった。
- ・合理的配慮について、分かりやすく説明していただき、不安に思っていた部分が解消された。